

報 告

相模湾から得られたタイワンメナダ

福地伊美映・田中翔大・本田康介・和田英敏

Ifue Fukuchi, Shota Tanaka, Kosuke Honda and Hidetoshi Wada: Record of *Moolgarda seheli* (Fabricius, 1775) from Sagami Bay, Japan

緒 言

相模湾は黒潮の影響を受ける開放的な湾であり、同湾からはこれまでに合計 8 種のボラ科魚類 [オニボラ *Ellochelon vaigiensis* (Quoy & Gaimard, 1825)、フウライボラ *Moolgarda crenilabis* (Forsskål, 1775)、ボラ *Mugil cephalus cephalus* Linnaeus, 1758、ナンヨウボラ *Osteomugil perusii* (Valenciennes, 1836)、メナダ *Planiliza haematocheila* (Temminck & Schlegel, 1845)、セスジボラ *Pla. lauvergnii* (Eydoux & Souleyet, 1850)、コボラ *Pla. macrolepis* (Smith, 1846)、ワニグチボラ *Plicomugil labiosus* (Valenciennes, 1836)] が記録されている (本田ほか, 2024)。

2020 年 11 月 2 日に、第 2 著者によって相模湾東部かつ房総半島西岸にあたる千葉県館山市坂田の東京海洋大学館山ステーション地先からタイワンメナダ *Moolgarda seheli* (Fabricius, 1775) に同定される稚魚 2 個体が採集された。これは本種の相模湾からの初記録であるためここに報告する。

材料と方法

計数と計測は原則として Grant & Spain (1975) に従ったが、横列鱗数の計数は Harrison & Senou (1999) に従い、第 1 背鰭起部から腹鰭起部にかけての鱗を数えた。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った。標準体長は体長あるいは SL と略記した。本報告に用いた標本は神奈川県生命の星・地球博物館の魚類標本コレクション (KPM-NI) にて登録・保管されている。また、生鮮時の写真資料は同館の魚類写真資料データベースに登録されている。同館の標本資料番号は、電子台帳上はゼロが付加された 7 桁の数字が使われているが、ここでは標本資料番号として本質的な有効数字で表した。本報告における相模湾の定義は Senou *et al.* (2006) および本田ほか (2024) に従った。

結 果

タイワンメナダ

Moolgarda seheli (Fabricius, 1775)

(図 1)

標本

KPM-NI 63249、体長 32.0 mm、KPM-NI 63250、体長 34.9 mm、2020 年 11 月 2 日、千葉県館山市坂田 (相模湾東部、房総半島西岸)、手網、田中翔大採集。

分布

アフリカ大陸東岸、紅海からマルキーズ諸島にかけてのハワイ諸島を除くインド・太平洋に広く分布する (Harrison & Senou, 1999; 瀬能, 2013)。日本国内では、福島県双葉郡広野町岩沢川、いわき市久之浜町末続川、茨城県北茨城市大津漁港、日立市久慈町茂宮川、東茨城郡大洗町大洗漁港、千葉県勝浦市墨名川、鴨川市開戸川、神奈川県横浜市鶴見川、平塚市松尾川、静岡県焼津市瀬戸川、菊川市菊川、和歌山県海南町加茂川、高知県高知市春野漁港、四万十市四万十川、鹿児島県霧島市福の川、南さつま市硯川、大隈諸島 (種子島、屋久島、口永良部島)、奄美群島 (奄美大島、喜界島、沖永良部島、与論島)、沖縄県沖縄諸島 (沖縄島、久米島、渡嘉敷島)、宮古諸島 (宮古島、池間島、伊良部島) 八重山諸島 (石垣島、西表島、与那国島)、および大東諸島南大東島から記録されていた (瀬能・鈴木, 1980; 瀬能・北村, 1982; 金川, 1988; 諸喜田, 1996; 吉郷, 2000, 2007; 吉郷ほか, 2005; 木村, 2000; Fujita *et al.*, 2002; 荒尾ほか, 2008; 神田ほか, 2009; Motomura *et al.*, 2010; 鳥居ほか, 2011; 瀬能, 2013; 横浜市環境科学研究所, 2014; 瀬能, 2014; Koeda *et al.*, 2016; 木村ほか, 2017; Nakae *et al.*, 2018; 田中ほか, 2020; Motomura & Uehara, 2020; Fujiwara & Motomura, 2020; 外山ほか, 2021; 福地・立原, 2022; 古槁ほか, 2023; 是枝ほか, 2023; 外山・福地, 2023; 百瀬・尾山, 2024; 松永ほか, 2025)。千葉県館山市坂田から得られた 2 個体は、本種の相模湾からの初記録となる。

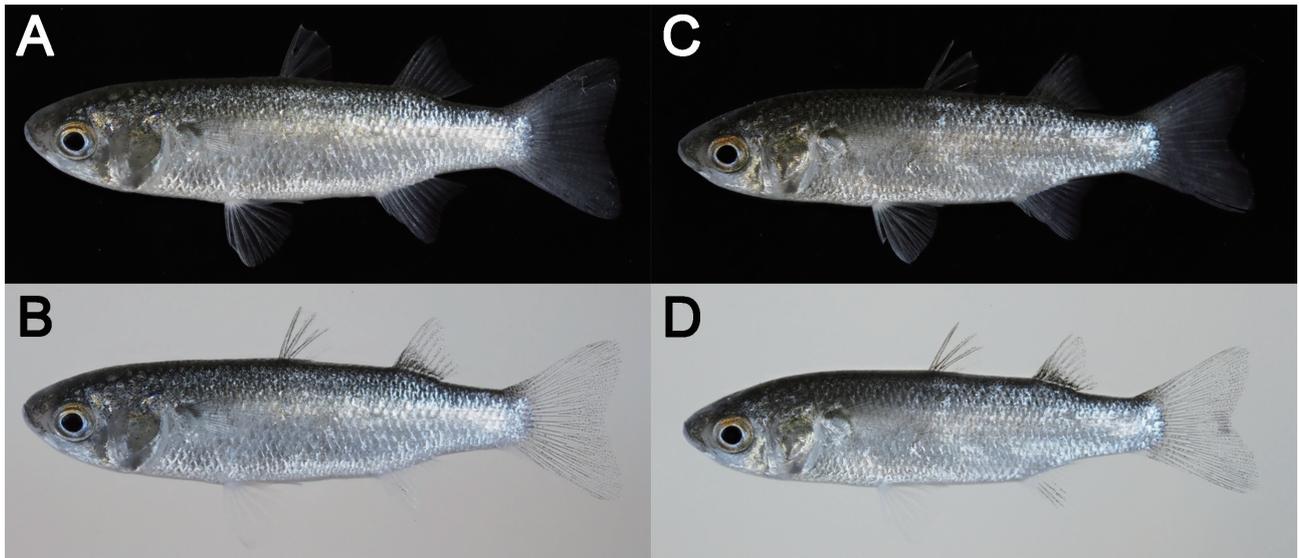


図 1. 千葉県館山市飯田(相模湾)から得られたタイワンメナダ *Moolgarda seheli*. A, B: KPM-NI 63249, 32.0 mm SL; C, D: KPM-NI 63250, 34.9 mm SL. 田中翔大撮影.

生息環境

採集地である東京海洋大学館山ステーション地先の海岸は、泥岩質の岩盤からなる磯と、砂に礫や貝殻片などが混じる砂浜から構成されている(下光ほか, 2019)。タイワンメナダ 2 個体は、岩盤に近い砂浜の波打ち際で採集された。

同定

記載標本は、背鰭条数が 4 棘 9 軟条、臀鰭条数が 3 棘 9 軟条、縦列鱗数が 40、横列鱗数が 13、尾柄周囲鱗数が 18、上唇下部に小乳頭状突起が認められない、主上顎骨後端が口角部のはるか後方に位置し、閉口時に露出しない、脂脰が未発達で虹彩を覆わない、胸鰭基底上端が瞳孔の上端よりも上に位置する、第 2 背鰭起部がおおむね臀鰭第 1 軟条の直上に位置する、第 2 背鰭基底付近に黒色素胞が密集し黒斑をなす、ホルマリン固定後に尾鰭基底付近に半月型の黒色素胞が認められることなどが、木下・瀬能(2014)、福地・立原(2022) および外山・福地(2023) が示したタイワンメナダの稚魚の形態的特徴とよく一致したため、本種に同定された。

考 察

本報告によって、相模湾から記録されたボラ科魚類は 6 属 9 種となった。これらのうち、ボラ、メナダ、セスジボラを除く 6 種は、相模湾や隣接する海域からの記録の大部分が体長 10–60 mm 程度の小型標本に基づくものであり(例えば, Senou *et al.*, 2006; 下光ほか, 2019; 山川ほか, 2020)、第 1 著者による博物館収蔵標本の調査においても成魚の標本は確認されていない。したがって、これら 6 種の相模湾における出現は、黒潮の輸送による無効分散である可能性が高い。しかし、近年では房総半島から体長約 80 mm のやや成長したタイワンメナダが採集されており、関東においても越冬の可能性が示唆

されている(百瀬・尾山, 2024)。本種を含む熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類のより詳細な分布や越冬状況を把握するため、今後も継続的な標本収集が望まれる。なお、木村(2000)は相模湾流入河川の松尾川(相模川水系)下流部からタイワンメナダを記録しているが、本報告では Senou *et al.* (2006) および本田ほか(2024)の相模湾の定義に従い、河川域から得られている当該記録を本種の相模湾からの記録として扱わなかった。ただし、この個体は相模湾を経由して出現したものと考えられる。また、望月ほか(2022)は鹿児島県大隅諸島竹島から本種を記録しているが、その図(望月ほか, 2022: fig. 1f)は主上顎骨後端が口角部の直後に位置すること(瀬能, 2013)、第 2 背鰭基底付近に黒色素胞がないことから(木下・瀬能, 2014; 福地・立原, 2022; 外山・福地, 2023)、タイワンメナダではなくボラであると判断し、本種の分布に含めなかった。

謝 辞

神奈川県内のボラ科魚類の採集記録についてご教示いただいた相模湾海洋生物研究会の木村喜芳氏、標本の登録を行っていただいた神奈川県生命の星・地球博物館名誉館員の瀬能 宏氏に感謝の意を表す。本研究は JSPS 科研費(24K16204)の援助を受けた。

引用文献

- 荒尾一樹・大和 剛・石田 淳, 2008. 静岡県河口域で採集された魚類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (18): 29–32.
 Fujita, S., I. Kinoshita, I. Takahashi & K. Azuma, 2002. Species composition and seasonal occurrence of fish larvae and juveniles in the Shimanto Estuary, Japan. *Fisheries Science*, **68**(2): 364–370.
 Fujiwara, K. & H. Motomura, 2020. An annotated checklist of

- marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, **14**: 1–73.
- 福地伊芙映・立原一憲, 2022. 大東諸島から得られたボラ科魚類 7 種の記録. *魚類学雑誌*, **69**(1): 87–102.
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之, 2023. 大隅諸島の種子島と屋久島から得られた淡水・汽水性魚類 15 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **29**: 20–33.
- Grant, C. J. & A. V. Spain, 1975. Reproduction, growth and size allometry of *Mugil cephalus* Linnaeus (Pisces: Mugilidae) from North Queensland inshore waters. *Australian Journal of Zoology*, **23**: 181–201.
- Harrison, I. J. & H. Senou, 1999. Order Mugiliformes. Mugilidae. Mulletts. In Carpenter, K. E. & V. H. Niem (eds.), FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 4. Batoid fishes, chimaeras and bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangiidae), pp. 2069–2108. FAO, Rome.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏, 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (53): 127–218.
- 金川直幸, 1988. 静岡県の河口域魚類 - 神奈川県との比較 -. 神奈川自然誌資料, (9): 1–13.
- 神田 猛・上原 聡・澁野拓郎, 2009. 八重山諸島石垣島の陸水域魚類相. 宮崎大学農学部研究報告, (55): 13–24.
- 木村喜芳, 2000. 茅ヶ崎市の淡水魚類相. 文化資料館調査研究報告, **8**: 1–26.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編), 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 200 pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 木下 泉・瀬能 宏, 2014. ボラ目. 沖山宗雄編, 日本産稚魚図鑑: 第二版, pp. 523–529. 東海大学出版会, 秦野.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada & T. Uchiyama, 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. vi + 120 pp. The Kagoshima University Museum, Kagoshima.
- 是枝伶旺・福地伊芙映・本村浩之, 2023. 薩摩半島から得られた九州沿岸初記録のボラ科魚類 2 種 (カマヒレボラとモンナンシボラ). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **30**: 17–30.
- 松永 翼・橘 皆希・森崎茉優・遠藤広光, 2025. 四国初記録のヨゴレマツカサ (イトウダイ科) とシリキルリスズメダイ (スズメダイ科) を含む高知市春野漁港から得られた魚類 30 種の追加記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **55**: 52–62.
- 望月健太郎・是枝伶旺・佐藤智水・本村浩之, 2022. 大隅諸島竹島から得られた北限更新記録を含む同島初記録の魚類 43 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **23**: 19–31.
- 百瀬 樹・尾山大地, 2024. 房総半島から得られた暖水性魚類 8 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **49**: 35–48.
- Motomura, H., K. Kuriwa, E. Katayama, H. Senou, G. Ogihara, M. Meguro, M. Matsunuma, Y. Takata, T. Yoshida, M. Yamashita, S. Kimura, H. Endo, A. Murase, Y. Iwatsuki, Y. Sakurai, S. Harazaki, K. Hidaka, H. Izumi & K. Matsuura, 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.), Fishes of Yaku-shima Island—A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 65–248. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Motomura, H. & K. Uehara, 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, **12**: 1–125.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara & K. Matsuura, 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, (52): 205–361.
- 瀬能 宏, 2013. ボラ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp. 636–641, 1913–1918. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏, 2014. タイワンメナダ. 本村浩之・松浦啓一編, 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類, p. 73. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 瀬能 宏・北村利幸, 1982. 加茂川感潮域の魚類 I. 南紀生物, **24**(1): 36–42.
- Senou, H., K. Matsuura & G. Shinohara, 2006. Checklist of fishes in Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the Influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, (41): 389–542.
- 瀬能 宏・鈴木寿之, 1980. 八重山列島の淡水魚 (I). 淡水魚, **6**: 54–65, pls. 1–8.
- 下光利明・遠藤周太・三井翔太・横地和正・瀬能 宏, 2019. 千葉県館山市坂田の東京海洋大学館山ステーション地先出現する魚類. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 121–137.
- 諸喜田茂充, 1996. 平良市の陸水および海洋環境の保全. 沖縄国際大学南島文化研究所編, 平良市自然環境保全基本構想, pp. 161–195. 沖縄国際大学南島文化研究所, 平良.
- 田中翔太・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介, 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (49): 107–118.
- 鳥居高志・塩根嗣理・加藤憲一・杉浦幸彦・黒川忠之・大野正博・大城朝一・新垣敏一, 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. 応用生態工学, **13**: 123–139.
- 外山太一郎・福地伊芙映, 2023. 福島県から得られた北限記録のフウライボラおよびタイワンメナダ. ニッチェ・ライフ, **11**: 48–49.
- 外山太一郎・福地伊芙映・山崎和哉, 2021. 茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類 4 種の北限記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, **6**: 54–65.
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一郎・森田 優・碧木健人・丸山智郎・田中翔太・斎藤洪成・津田善晃・瀬能 宏, 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. 神奈川県自然誌資料, (41): 71–82.
- 横浜市環境科学研究所, 2014. 横浜の川と海の生物 (第 13 報・海域編). 266 pp. 横浜市環境科学研究所, 横浜.
- 吉郷英範, 2000. 与那国島 (琉球列島) の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, **39**: 165–179, pls. 1–6.
- 吉郷英範, 2007. 琉球列島久米島の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, **48**: 25–51, pls. 1–4.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾, 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, **5**: 1–51, pl. 1.

福地伊芙映: 沖縄美ら海水族館; 田中翔太: 東京大学大学院農学生命科学研究科; 本田康介: 神奈川県立生命の星・地球博物館 (外来研究員); 和田英敏: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(受領 2025 年 10 月 31 日; 受理 2026 年 1 月 6 日)